

正確に早く英語の情報をつかむための速読指導

1 現状における課題

高校入学時には多くの生徒が聞く活動・話す活動を中心に英語学習に積極的に取り組むが、内容の深い英文、ある程度分量のある英文に接するようになるにつれ英語に対する興味・関心が薄れていく生徒もみられるようになる。模擬試験などでも生徒が一番苦手としているのは長文読解である。長文を読む活動が継続的に十分に行われていないことが理由として考えられる。

2 目標設定・仮説設定

高等学校の英語学習において、「読む」活動が占める割合は大きい。読む活動というと、逐語訳を中心とした英文の文法訳読がイメージされるが、ここでは、速読を通して、直読直解に慣れ英語の情報を早く正確につかむことを考えていきたい。

3 仮説の設定

- 1 速読を行うことにより、英語(長文)を読むことに対する、苦手意識が薄れるのではないかな。
- 2 直読直解を意識して英文を読むことにより、早く正確に英文の情報がつかめるようになるのではないかな。

4 計画の実践

- ・ TOEIC の模試を実施し、スコアを測定する。(1回目)
- ・ 毎時間リーディングの授業で速読活動を取り入れる。
(毎時間 WPM(=Words Per Minute)を測定)
- ・ TOEIC の模試を実施しスコアを測定する。(2回目)
- ・ TOEIC の1回目と2回目の得点の変化(データ)を調べる。
- ・ アンケートの実施(生徒の感想)。

5 結果の検証

◎1回目の TOEIC の模試を実施

実施日 10月23日～10月26日(リーディングの授業で実施)

*リスニング分野 45分

*リーディング分野 75分(45分と30分に2回に分けて実施)

◎リーディングの授業の初めに速読を実施し、毎時間 WPM (=Words Per Minute) を記録する。10月27日から11月21日の間に、13回実施。

*速読用教材: 中学校3年生から高校1年生レベル。語彙数は200語から270語。

*内容に関する簡単な質問(問題数は4～5問でそれぞれ4択10点満点)に答える。

*かかった時間と正答率より、WPMを算出する。

WPMの算出方法

$$\text{総語数} \div \frac{\text{時間(秒)}}{60} \times \text{正解率} = \text{WPM}$$

*時間(秒)=英文を読むのにかかった時間

*正解率 =問題の正解率

(例) 200語の英文を120秒で読み、問題の正解得点が8点だった場合
 $200 \div (120 \div 60) \times 0.8 = 80$ WPMは80語になる。

*かかった時間の確認は、教師が黒板に時間を書き生徒が各自で確認する。

(WPMの測定方法については、金谷 憲 著『英語授業改善のための処方箋』大修館書店を参考にした)

◎2回目のTOEICの模試を実施

*実施日11月24日～11月28日(リーディングの授業で実施)

*リスニング分野 45分

*リーディング分野75分(45分と30分に2回に分けて実施)

◎得点(データ)の変化

整理番号	1回目				2回目			
	listening	reading	合計	予想スコア	listening	reading	合計	予想スコア
1	44	53	97	566	47	48	95	541
2	48	39	87	515	49			
3	42	53	95	556				
4	42	55	97	566	39	30	69	404
5	40	60	100	581				
6	31	36	67	412	37	23	60	357
7	31	42	73	443				
8	47	51	98	571	53	60	113	636
9	47	52	99	576	46	58	104	589
10	34	36	70	428	43			
11	45	63	108	622	46	62	108	610
12	45	65	110	633	62	77	139	773
13	27	34	61	382	42	39	81	468
14	75	85	160	889	74	80	154	852
15	43	43	86	510	42	37	79	457
16	43	60	103	597				
17	45	52	97	566	46	48	94	536
18	40	48	88	520	42	50	92	526
19	49	37	86	510	39	31	70	410
20	53	58	111	638	62	57	119	668
21	49	49	98	571	56	43	99	563
22	38	43	81	484				

23	46	48	94	551	44	44	88	505
24	46	45	91	535	40	48	88	505
25	36	51	87	515	42	53	95	541
26	38	51	89	525	36	39	75	436
27	43	47	90	530	58	41	99	563
28	47	37	84	499	54	50	104	589
29	44	42	86	510	43	51	94	536
30	39	52	91	535	57	53	110	621
31	50	53	103	597	51	57	108	610
32	39	51	90	530	39	37	76	441
33	41	64	105	607	54	52	106	599
34	48	58	106	612	53	59	112	631
35	58	61	119	679		62		
36	39	50	89	525	39	45	84	483
37	43	53	96	561	46	53	99	563
38	44	40	84	499	48	45	93	531
39	38	58	96	561	53	53	106	599
40	41	63	104	602	48	60	108	610
41	38	54	92	540	49	41	90	515
42	35	59	94	551	56	57	113	636
43	42	66	108	622	49	65	114	642
44	47	62	109	627	55	58	113	636
45	36	40	76	458	40	47	87	499
46	43	52	95	556				
平均	43.0217	51.5435	94.5652	553.5435	48.1795	50.3421	98.3243	558.9459
最高	75	85	160	889	74	80	154	852

- ・ 2回目は、被検査クラスが風邪の流行により欠席者が多く、1回目2回目の比較が十分にはできなかったが、予想スコアは、平均で若干上昇した。
- ・ 1回目より2回目の方が、予想スコアがアップした生徒は21名、ダウンした生徒は16名であった。

6 まとめ（課題・今後の取り組み）

今回の研究は被調査クラスが3年生で、調査期間が短期間（約一ヶ月）ということもあり、TOEICにおける得点の変化は、顕著には現れなかった。しかし、アンケート結果(生徒の感想)からも明らかなように、速読によって今回設定した仮説・目標が達成されると考えられる。また、速読が単に「英語の情報を早く正確につかむ」ことのみならず、リスニング力や、文の構成力にまで、影響を与えるように思われる。今後はもっと長いスパンでデータを取り、また速読による成果のみならず、音読をはじめとした読みの活動全般についても取り組んでその成果を検証していきたい。